

国際人文学部 国際交流学科

履修の手引と手続き

<小 目>

I	カリキュラム・ポリシー	176
II	ディプロマ・ポリシー	177
III	授業科目について	177
IV	授業科目の単位と認定	178
V	卒業に必要な単位について	178
VI	3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位	179
VII	授業科目の学年配当と履修すべき単位数	182
	1. 学科共通科目群	182
	2. 学部コア科目群	186
	3. 国際教養科目群	187
	4. 専門基礎科目群	188
	5. 専門科目群	190
	6. Global College 科目群	196
	7. 特設科目群	198
	8. 自由科目群	199
VIII	リベラルアーツ&サイエンス科目群	200
IX	履修申請について	203
X	正規の履修からはずれる場合	203
XI	試験について	204
XII	授業科目の単位認定と進級および留年	205
XIII	成績発表	206
XIV	Guideline for Students Mainly Using English as a Media of Instruction	207
	児童英語指導員養成課程	222

履修の手引きと手続き

I カリキュラム・ポリシー

国際人文学部国際交流学科では、教育研究上の目的及び学部の目指す人材育成に基づき、国内外の国際的な場で活躍する人材の養成のため、以下に掲げる方針によりカリキュラム（教育課程）を編成する。

- 実践的な英語コミュニケーション能力を4年間通して総合的に習得するために、学科共通科目群Ⅰ（英語・日本語）を配置する。
- 留学生・指定された帰国生徒等を対象とし、日本語コミュニケーション能力の向上をはかるために、学科共通科目群Ⅰ（英語・日本語）を配置する。
- 情報化社会で必要な、コンピュータに関する知識とスキルを習得するために、学科共通科目群Ⅱ（情報科学）を置く。
- グローバル化する文化や社会、コミュニケーションのあり方を多様な切り口から学び、国際社会に生きる人間としての教養を身につけ、人文学を学ぶことの意義を明確にするために、学部コア科目群を置く。
- 基礎的な国際教養を身につけるために、国際教養科目群を置く。
- グローバル化の進んだ社会を考慮し、第二外国語と世界の文化について学ぶために専門基礎科目Ⅰ（世界の文化と言語）を置く。
- 国際社会や国際関係について学び、異文化理解と国際交流、国際協力に必要な知識と実践力を身につけるために専門科目群Ⅰ（異文化理解交流）を置く。
- 言語や異文化などを切り口に国際コミュニケーションについて学び、日英の翻訳・通訳及び言語教育に関わる専門的な知識とスキルと、ビジネスに必要なコミュニケーション能力を身につけるために、専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）を置く。
- より高度な英語力を実践的に身につけるために、専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）を置く。
- 大学での学習に必要なスキルと社会人となるための基礎力を身につけ、その上で専門的な知識を学んで、その実践と発展を図るために専門科目群Ⅳ（演習）を置く。
- 日本語教育に関連する科目と諸専門分野に関連する科目を、専門科目群Ⅴ（専門関連科目群）として配置する。
- 英語で学ぶことにより、英語の運用能力を向上させ、かつ国際教養を身につけるために Global College 科目群を置く。

Ⅱ ディプロマ・ポリシー

国際人文学部国際交流学科は、以下に掲げる能力を有し、かつ所定の単位を修得した学生に、学士（国際交流）の学位を授与する。

知識・理解

- 英語と選択した第二外国語について、その言語と文化、社会を理解している。
- 国際的な視野から、日本語と、日本の文化と社会を理解している。
- 国際交流を積極的に進め、国際的な場で協働をおこなうための広い視野と教養を学んでいる。

汎用的技術

- 英語及び選択した第二外国語を読み、書き、聞き、話すことによって、適切なコミュニケーションをはかることができる。
- 日本語を読み、書き、聞き、話す能力を十分に持ち、国内及び国際的な場で日本語によって積極的なコミュニケーションをおこなうことができる。
- 国際的な視野を持ち、国際交流を実践できる社会人として必要な基礎的な知識やスキルを身につけている。

態度・志向性

- 日本語と外国語のいずれによっても、自己を適切に表現し、相手と積極的にコミュニケーションを進めることができる。
- コミュニケーション能力と国際交流に関する知識を備え、かつ社会人として必要な倫理と協調性、リーダーシップを持って行動することができる。
- 異なる言語・文化・社会に寛容であり、国際社会の発展に貢献することを目指して行動することができる。

総合的な学習経験と創造的思考力

- コミュニケーション能力と言語・文化・社会に関する広範な教養と専門知識、国際交流の知識とスキルを活用し、課題を発見し、解決をはかる能力を身につけている。

Ⅲ 授業科目について

国際人文学部国際交流学科における授業科目は学科共通科目群Ⅰ・Ⅱ、学部コア科目群、国際教養科目群、専門基礎科目群Ⅰ・Ⅱ、専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、Global College 科目群、特設科目群及び自由科目群から構成されている。

なお、自由科目群は、教職に関する科目群であり、卒業単位には算入されない。

Ⅳ 授業科目の単位と認定

本学部では単位制を採用している。単位制とは、一つひとつの授業科目に一定の基準により定められた単位があり、履修した授業科目に対して、試験もしくはその他の方法により学習評価をしたうえで、その単位を認定する制度である。

単位の認定は、S・A・B・Cの4段階の評価により行い、D・E・F・T・Zの評価は単位を認定しないものとする。なおN・Hは、単位振替により単位を認定したことを表す。

Ⅴ 卒業に必要な単位について

卒業に必要な単位は、次の表に示すとおりである。

自由科目群は卒業に必要な単位には含まれないので、注意すること。

系 列	学部・学科	国際人文学部	国際交流学科
		必 要 単 位 数	
学科共通科目群Ⅰ（英語・日本語）		22	
学科共通科目群Ⅱ（情報科学）		4	
学部コア科目群		6	
国際教養科目群		10	
専門基礎科目群（世界の文化と言語）		6	
専門科目群Ⅰ（異文化理解交流）		34*	
専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）			
専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）			
専門科目群Ⅳ（演習）		12**	
専門科目群Ⅴ（専門関連科目群）		6	
Global College科目群		なし***	
各科目群に指定された最低修得単位のほかに、国際交流学科の全ての科目群もしくは国際人文学部国際文化学科、経営情報学部、福祉総合学部、メディア学部、環境社会学部、観光学部の科目より26単位以上修得しなければならない		26	
計		126単位	

* 国際交流学科には「異文化理解交流」と「国際コミュニケーション」の2つの領域がある。専門科目群Ⅰより8単位以上修得すること。専門科目群Ⅱより8単位以上修得すること。また専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ合計で、34単位以上修得すること。

** 卒業論文を履修しない場合は、専門科目群Ⅰ～Ⅴ、Global College科目群より卒業論文に替えて4単位を修得すること。

*** 後掲の「6. Global College科目群」を参照。

VI 3年次への進級条件及び各学年における標準的な修得単位

3年次に進級するには、「基礎ゼミⅠ・Ⅱ」及び1年次の必修科目を含め36単位以上を修得しなければならない。

各学年における科目および修得単位数の目安は、次の表に示すとおりである。

また、年間の履修登録については原則50単位未満とすること。ただし、大学が教育上適当と認める場合は、履修上限単位数を超えて履修することを認めることがある。

学 年	単 位 数 の 目 安
1 年次	学科共通科目群Ⅰ（英語・日本語）
	Fundamentals of English Ⅰ …………… 1 科目 3 単位（必修）
	Oral Fluency Ⅰ …………… 1 科目 2 単位（必修）
	Fundamentals of English Ⅱ …………… 1 科目 3 単位（必修）
	Oral Fluency Ⅱ …………… 1 科目 2 単位（必修）
	Basic Writing Skills…………… 1 科目 2 単位（必修）
	Intermediate Practical Discussion Skills…………… 1 科目 2 単位（必修）
	学科共通科目群Ⅱ（情報科学）
	情報メディア論…………… 1 科目 2 単位（必修）
	コンピュータ技能Ⅰ…………… 1 科目 2 単位（必修）
	学部コア科目群
	留学プランニング…………… 1 科目 2 単位（選択）
	自校史研究…………… 1 科目 2 単位（選択）
	国際教養科目群
	国際日本学または「Japan from International Perspective」…………… 1 科目 2 単位（選択必修）
専門基礎科目群（世界の文化と言語）	第二外国語 2 科目 4 単位（選択必修）
第二外国語科目（同一言語前期ⅠA，後期ⅠB）……………	
専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）	
Intensive Weekend English …………… 1 科目 4 単位（選択）	
専門科目群Ⅳ（演習）	
基礎ゼミⅠ…………… 1 科目 2 単位（必修）	
国際交流研修（海外）…………… 1 科目 2 単位（選択）	
修得単位数 36単位	
2 年次	学科共通科目群Ⅰ（英語・日本語）
	Intermediate Reading Skills …………… 1 科目 2 単位（必修）
	Oral Fluency Ⅲ …………… 1 科目 2 単位（必修）
	Intermediate Writing Skills …………… 1 科目 2 単位（必修）
	学部コア科目群
	異文化理解…………… 1 科目 2 単位（選択）
	国際教養科目群
	政治学入門または「Introduction fo Political Science」…………… 1 科目 2 単位（選択必修）
	経済学入門または「Introduction to Economics」…………… 1 科目 2 単位（選択必修）
	国際ボランティア論…………… 1 科目 2 単位（選択）
地球環境論…………… 1 科目 2 単位（選択）	

学 年	単 位 数 の 目 安
修得単位数 40単位	専門基礎科目群（世界の文化と言語） 第二外国語科目（1年次と同一言語のⅡ）…………… 1科目2単位（選択） その他選択科目…………… 1科目2単位（選択） 専門科目群Ⅰ（異文化理解交流）…………… 3科目6単位（選択） 専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）…………… 3科目6単位（選択） 専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）…………… 1科目2単位（選択） Global College科目群…………… 1科目2単位（選択） 専門科目群Ⅳ（演習） 基礎ゼミⅡ…………… 1科目2単位（必修） 専門科目群Ⅴ（専門関連科目群）…………… 1科目2単位（選択）
3年次 修得単位数 34単位	学科共通科目群Ⅰ（英語・日本語）…………… 2科目4単位（選択） 専門科目群Ⅰ（異文化理解交流）…………… 4科目10単位（選択） 専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）…………… 5科目10単位（選択） 専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）…………… 1科目2単位（選択） Global College科目群…………… 1科目2単位（選択） 専門科目群Ⅳ（演習） 国際交流演習Ⅰ…………… 1科目2単位（必修） 専門科目群Ⅴ（専門関連科目群）…………… 2科目4単位（選択）
4年次 修得単位数 14単位	学科共通科目群Ⅰ（英語・日本語）…………… 1科目2単位（選択） 専門科目群Ⅰ（異文化理解交流）…………… 1科目2単位（選択） 専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）…………… 1科目2単位（選択） Global College科目群…………… 1科目2単位（選択） 専門科目群Ⅳ（演習） 国際交流演習Ⅱ…………… 1科目2単位（必修） 卒業論文…………… 1科目4単位（選択）
卒 業 修得単位数 126単位	

※英語もしくは日本語で修得可能な科目に関する留意事項

以下の科目は英語もしくは日本語で修得可能な科目である。いずれかの言語で修得した場合、別の言語では修得できない。

学部コア科目群	
異文化理解	Cross-Culture Understanding
国際教養科目群	
国際日本学	Japan from an International Perspective
政治学入門	Introduction to Political Science
経済学入門	Introduction to Economics
国際ボランティア論	International Volunteering
専門科目群Ⅰ（異文化理解交流）	
日本と北米	Japan and North America : Minority Studies
日本と中南米	Japan and Central and South America
アジアの女性論	Women in Asia
NGO・NPO 入門	Introduction to NGO NPO
NGO・NPO 論	NGO NPO Studies
国際関係論	International Relations: Politics, Organizations and Law
文化交流史 a（日本：アジア）	History of International Relations: Asia
文化交流史 b（日本：欧米）	History of International Exchange: Europe & North America
専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）	
言語学概論	Introduction to Linguistics
言語・非言語コミュニケーション論	Non-Verbal Communication : Japan
国際コミュニケーション入門	Introduction to International Communication
専門科目群Ⅴ（専門関連科目群）	
日本の歴史 a	History of Japan a
日本の歴史 b	History of Japan b

Ⅶ 授業科目の学年配当と履修すべき単位数

〔留意事項〕

- (1) 「Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で表示された科目は、数字の順序に従って履修するものとする。「ⅠA・ⅠB」は原則として、ⅠAを先に履修すること。
- (2) 「a・b」はどちらを先に履修してもよい。また、どちらか一方のみの履修も可とする。
- (3) ただし、実際の履修については、シラバスに記された各科目の履修要件をよく読むこと。
- (4) 単位数を○で囲んだ科目は、必修を示す。
- (5) 本学は春学期・秋学期の二学期制をとっている。基本的に大多数の科目は学期ごとに履修することになる。ただし、一部に一年間（春学期・秋学期）を通して履修する通年科目がある。また、夏期と冬期には集中講義期間があり、集中講義期間には数日間同じ科目の授業が実施される。さらに、研修・インターンシップ等は、学期の枠と関係なく実施される場合もある。
- (6) 原則として上位学年の者は、下位学年に配当されている科目を履修できる。たとえば1年次の枠のみに指定されている科目でも、2年次以上になってから履修できる。但し、授業内容は学年が進むほど専門性が高くなるように設定してあるので、それぞれの学年の枠で履修することが望ましい。
- (7) 履修を指定された必修科目が自分の取りたい必修以外の科目と重複した場合には、必修科目の履修を優先すること。
- (8) クラスA・クラスBといったクラス分けは、履修指導の一環として設けているクラスである。クラス指定は、履修者数が偏らないように必修科目などでなされていることが多い。クラスの指定がある科目は、それぞれ自分のクラスで履修すること。
- (9) 語学・演習・実習科目においては、原則として週1回の授業につき一学期（15週）で1単位を付与する（たとえば、2単位の語学科目の場合、週2回同じ科目の授業がある。3単位の語学科目の場合は、週3回授業がある）。
- (10) 講義系の科目においては、原則として週1回の授業につき一学期（15週）で2単位を付与する（たとえば、2単位の講義科目の場合、週1回授業がある。4単位の講義科目の場合は週2回授業がある）。

1. 学科共通科目群

学科共通科目群は、学科共通科目群Ⅰ（英語・日本語）、学科共通科目群Ⅱ（情報科学）の2科目群に分かれている。それらの各科目群の中から「Ⅲ 卒業に必要な単位について」で示された所定の単位を修得しなければならない。

(1) 学科共通科目群Ⅰ（英語・日本語）

実践的な英語コミュニケーション能力を4年間通して総合的に習得することを目的として

いる。国際交流学科の特徴の一つは充実した英語教育であり、「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能を総合的に身につけることを重視している。そのため、1年次には6科目14単位を、2年次には3科目6単位を必修としている。

英語の必修科目では、原則として能力別のクラス分けがなされている。履修するクラスは、年度末（新入生は年度当初）の英語能力テスト（プレイスメント・テスト）によって決定される。このテストを必ず受け、指定されたクラスを履修しなければならない。個人の都合で指定されたクラスを勝手に変更することはできない。

留学生と指定された帰国生徒等は、日本語コミュニケーション能力の向上を図るために、1年次と2年次に2科目4単位ずつを履修し、4年間で22単位履修する。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科 共通 科目 群 I (英語)	Fundamentals of English I	③				22単位	必修20単位を含み 22単位を選択必修
	Oral Fluency I	②					
	Fundamentals of English II	③					
	Oral Fluency II	②					
	Basic Writing Skills	②					
	Intermediate Practical Discussion Skills	②					
	Intermediate Reading Skills		②				
	Oral Fluency III		②				
	Intermediate Writing Skills		②				
	TOEIC : Vocabulary I	2					
	TOEIC : Grammar & Listening I	2					
	TOEIC : Vocabulary II			2			
	TOEIC : Grammar & Listening II			2			
	Advanced Practical Discussion Skills				2		
	Advanced Reading Skills				2		
	Oral Fluency IV				2		
	Business English Writing				2		
Spoken Business English				2			
English Pronunciation		2					

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
学科 共通 科目 群 I (日本語)	日本語 I A	②				22単位	留学生・指定された帰国生徒等対象 必修 8 単位を含み 22単位を選択必修 (但し、日本語力が十分な水準に達していると判断される学生は、必修 22 単位のうち 8 単位分まで「学科共通科目群 I」の日本語以外の科目で修得することができる。)
	日本語 I B	②					
	日本語 II A		②				
	日本語 II B		②				
	日本語 III				2		
	日本語 IV				2		
	ビジネス日本語 I				2		
	ビジネス日本語 II				2		
	日本語基礎 a		4				
	日本語基礎 b		4				
	日本語基礎 c		4				
	日本語基礎 d		4				
	日本語基礎 e		4				
	日本語基礎 f		4				
日本語基礎 g		4					
日本語基礎 h		4					

〔備考〕

- (1) 学科共通科目群 I では、第一外国語として英語（外国人留学生・指定された帰国生徒等は日本語）を学ぶ。単位数を○で囲んである科目は必修科目である。
- (2) Fundamentals of English II, Oral Fluency II を履修するためには、履修前提条件として、それぞれの I を修得していなければならない。Oral Fluency III, IV も同様に、同 II, 同 III を履修していなければならない。
- (3) 日本語 I A・I B のいずれか 2 単位を修得していなければ、日本語 II A・II B を履修することはできない。
- (4) 日本語力が十分な水準に達しているかどうかの判断は、個別になされる。日本語の履修については、別途語学教育センターの指示に従うこと。

(2) 学科共通科目群Ⅱ（情報科学）

情報化社会に必要な、パソコンやインターネットなどに関する知識とスキルを習得する科目を配置している。1年次にはこれらの科目を必修として学ぶ。これと合わせてマイクロソフトの技能資格を取得することが望ましい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学科共通科目群Ⅱ (情報科学)	情報メディア論	②				4単位	
	コンピュータ技能Ⅰ	②					
	コンピュータ技能Ⅱ		2				

2. 学部コア科目群

この科目群は、グローバル化する文化や社会、コミュニケーションのありかたを多様な切り口から学び、国際社会に生きる人間としての教養を身につけ、人文学を学ぶことの意義を明確にすることを目的としている。

なお、留学を予定する者は「留学プランニング」を履修することが望ましい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単位数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
学 部 コ ア 科 目 群	ジェンダー論	2				6 単位	3科目6単位を選択 必修
	歴史・文化の視点	2					
	異文化理解	2					
	コミュニケーションの基礎	2					
	世界の中の日本	2					
	地域と大学	2					
	自校史研究 (建学の精神と大学の理念)	2					
	ビジネス入門	2					
	留学プランニング	2					
	Cross-Culture Understanding	2					

3. 国際教養科目群

基礎的な国際教養を身につけるための科目群である。国際社会で活躍するためには、社会の基礎や、文化・社会について広く知ることが必要である。そのために、世界と日本、人間と社会、ジェンダー、地球の未来、スポーツについて学ぶ。なかでも「国際日本学」または「Japan from an International Perspective」, 「政治学入門」または「Introduction to Political Science」, 「経済学入門」または「Introduction to Economics」は選択必修科目である。

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
国 際 教 養 科 目 群	国際日本学	2				10 単位	「国際日本学」または「Japan from an International Perspective」, 「政治学入門」または「Introduction to Political Science」, 「経済学入門」または「Introduction to Economics」の3科目6単位を含み10単位以上を選択必修
	日本文化 a (外国人留学生対象)	2					
	日本文化 b (外国人留学生対象)	2					
	日本社会 a (外国人留学生対象)	2					
	日本社会 b (外国人留学生対象)	2					
	政治学入門		2				
	経済学入門		2				
	日本国憲法	2					
	国際ボランティア論	2					
	地球環境論	2					
	中欧の社会と文化	2					
	スポーツ科学 I a	1					
	スポーツ科学 I b	1					
	グローバル社会と女性	2					
	Japan from an International Perspective	2					
	Japan Culture a: Art & World Heritage Site	2					
	Japan Culture b: Popular Culture (Manga)	2					
	Japan Culture c: Popular Culture (Anime)	2					
	Japan Society: Thought and Behavior	2					
	Introduction to Political Science		2				
Introduction to Economics		2					
International Volunteering	2						

4. 専門基礎科目群（世界の文化と言語）

グローバル化の進んだ社会に適応するため、第二外国語と世界の文化について学ぶ科目群である。英語以外（留学生は日本語以外）の言語を第二外国語として学び、同一言語の初級2科目4単位を必ず履修しなければならない。グローバル化が進み、英語プラスもう一ヶ国語の外国語の能力が求められるようになってきている。第二外国語もぜひマスターしてほしい。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群 （世界の文化と言語）	文化人類学		2			6単位	第二外国語一ヶ国語 4単位（同一第二外国語のI A, I B） を含み、6単位以上 選択必修のこと ※外国人留学生は、 第二外国語一ヶ国語 に替えて、「学科共通 科目群I（英語・ 日本語）」におかれ ている英語科目より 2科目4単位を選択 することができる。
	宗教学概論		2				
	外国史概説		2				
	地理学 a		2				
	地理学 b		2				
	地誌			2			
	ドイツ語 I A	2					
	ドイツ語 I B	2					
	ドイツ語 II		2				
	ドイツ語 III			2			
	ドイツ語 IV				2		
	フランス語 I A	2					
	フランス語 I B	2					
	フランス語 II		2				
	フランス語 III			2			
	フランス語 IV				2		
	スペイン語 I A	2					
	スペイン語 I B	2					
	スペイン語 II		2				
	スペイン語 III			2			
	ポルトガル語 I A	2					
	ポルトガル語 I B	2					
	ポルトガル語 II		2				
	ポルトガル語 III			2			
	中国語 I A	2					
	中国語 I B	2					
中国語 II			2				
中国語 III			2				
中国語 IV				2			
韓国語 I A	2						

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専門基礎科目群 (世界の文化と言語)	韓国語 I B	2					
	韓国語 II		2				
	韓国語 III		2				
	韓国語 IV			2			
	ハンガリー語 I A	2					
	ハンガリー語 I B	2					
	ハンガリー語 II	2					
	ハンガリー語 III		2				
	ハンガリー語 IV		2				
	ハンガリー文化研究 a	2					
	ハンガリー文化研究 b	2					
	ポーランド語 I A	2					
	ポーランド語 I B	2					
	ポーランド語 II	2					
	ポーランド語 III		2				
	チェコ語 I A	2					
	チェコ語 I B	2					
	チェコ語 II	2					
	チェコ語 III		2				
	スウェーデン語 I A	2					
スウェーデン語 I B	2						

〔備考〕

- (1) 第二外国語において、I Bを履修するには、I Aを修得していなければならない。
- (2) I Aは前期、I Bは後期に配当している。外国語の学習においては継続性が重要であるので、一年間（春学期・秋学期）を通して履修することが望ましい。I A、I Bを修得し、さらに上のレベルの語学力を身につけたい学生はII（外国語によってはさらにIII・IV）を履修すること。また第二外国語を習得した上で、それぞれの言語圏の大学にも積極的に留学してほしい。

5. 専門科目群

国際交流学科の専門科目は5科目群に分かれている。うち「専門科目群Ⅰ（異文化理解交流）」と「専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）」は、「異文化理解交流」と「国際コミュニケーション」の2つの領域にそれぞれ対応する科目群である。それぞれの領域での専門性を高めるために、専門科目群Ⅰより8単位以上、専門科目群Ⅱより8単位以上修得する必要がある。また、「専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）」と合わせて、専門科目群Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ合計で、34単位以上修得することが必要である。さらに「専門科目群Ⅳ（演習）」と「専門科目群Ⅴ（専門関連科目群）」がある。

(1) 専門科目群Ⅰ（異文化理解交流）

国際社会や国際関係について学び、異文化理解と国際交流、国際協力に必要な知識と実践力を身につける科目群である。

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群 Ⅰ （ 異 文 化 理 解 交 流 ）	国際交流論	2				専門科目 群Ⅰ～Ⅲ 合計で34 単位	8単位以上選択必修
	国際交流・協力実践	2					
	日本と北米	2					
	日本と中南米	2					
	日本とヨーロッパ	2					
	日本とアジア	2					
	アジアの女性論	2					
	ビジネス基礎		2				
	国際機構論				2		
	NGO・NPO入門			2			
	NGO・NPO論				2		
	NGO・NPO実務				2		
	国際開発論				4		
	国際関係論				4		
	アジア国際関係論				4		
	アメリカ対外関係論				4		
	中欧地域文化研究				4		
	開発と女性				4		
	文化交流史 a（日本：アジア）			2			
	文化交流史 b（日本：欧米）			2			
	日本文化論	2					
	西洋美術	2					
	日本美術	2					
文化遺産			2				
国際文化政策				2			
女性とキャリアデザイン			2				
Women in Asia	2						

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群 I	History of International Relations: Asia		2				
	History of International Exchange: Europe & North America		2				
	Introduction to NGO NPO		2				
	NGO NPO Studies			2			
	International Relations: Politics, Organizations and Law			4			
	Japan and North America: Minority Studies	2					
	Japan and Central and South America	2					

(2) 専門科目群 II (国際コミュニケーション)

言語や異文化などを切り口に国際コミュニケーションについて学び、日英の翻訳・通訳及び言語教育に関わる専門的な知識とスキルと、ビジネスに必要なコミュニケーション能力を身につける科目群である。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
専門科目群 II (国際コミュニケーション)	言語学概論		2			専門科目群 I～III 合計で 34 単位	8 単位以上選択必修
	英語学概論 a		2				
	英語学概論 b		2				
	社会言語学			2			
	言語学				2		
	言語・非言語コミュニケーション論			2			
	第二言語習得論			2			
	国際コミュニケーション入門		2				
	異文化間コミュニケーション論			2			
	異文化適応論			2			
	マスコミュニケーション論			2			
	秘書実務 I			2			
	秘書実務 II				2		
	ビジネスコミュニケーション				2		
航空・空港キャリア概論 a		2					

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群 II	航空・空港キャリア概論 b	2					
	航空・空港キャリア実習	2					
	翻訳の基礎 (英日)			2			
	翻訳の技法 (英日・実務翻訳)			2			
	通訳の基礎 (英日)			2			
	通訳の技法 (英日・実務通訳)			2			
	児童英語教授法 I		2				
	児童英語教授法 II		2				
	英米児童文学 a		2				
	英米児童文学 b			2			
	発達心理学		2				
	Introduction to Linguistics	2					
	Non-Verbal Communication: Japan		2				
	Introduction to International Communication	2					

〔備考〕

- (1) 原則として、「翻訳の技法 (英日・実務翻訳)」を履修するには「翻訳の基礎」を、「通訳の技法 (英日・実務通訳)」を履修するには「通訳の基礎」を履修し、修得していなければならない。
- (2) 「児童英語教授法 I」から「発達心理学」までの5科目は、児童英語指導員養成課程の科目である。

(3) 専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）

より高度な英語力を実践的に身につけるための科目群である。英語で学び、英語で発信するスキルを身につけ、英語でのコミュニケーション能力向上をはかる。

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考	
		1年	2年	3年	4年			
専門科目群Ⅲ (英語プロジェクト)	Intensive Weekend English		4			専門科目群Ⅰ～Ⅲ 合計で34 単位		
	Introduction to Academic English		2					
	English Project Education: Newspaper Writing I			2				
	English Project Education: Newspaper Writing II				2			
	English Project Education: Newspaper Writing III							2
	English Project Education: Mentor Program I				2			
	English Project Education: Mentor Program II							2
	English Teaching Methodology I			2				
	English Teaching Methodology II				2			
	Oral English for Children a			2				
	Oral English for Children b				2			
	Public Speaking				2			
	Presentation Skills				2			

〔備考〕

- (1) 「Intensive Weekend English」は、英語週末特訓合宿等を含む科目であり、履修にあたっては別途説明等を十分に受けること。
- (2) 「English Teaching Methodology I・II」「Oral English for Children a・b」の4科目は、児童英語指導員養成課程の科目である。

(4) 専門科目群Ⅳ（演習）

この科目群では大学での学習に必要なスキルと社会人となるための基礎力を身につけ、その上で専門的な知識を学んで、その実践と発展を図る。

基礎ゼミ・国際交流演習8単位が必修である。1・2年次は基礎ゼミを通して基礎教育を受ける。3・4年次には、全員がいずれかの演習に所属して、綿密な少人数教育を受ける。他に、研修・インターンシップ科目、卒業論文を履修することもできる。

系 列	授業科目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群 Ⅳ （ 演 習）	基 礎 ゼ ミ Ⅰ	②				12単位	必修8単位を含み12単位以上を選択必修のこと。 卒業論文を履修しない場合は、4年次に専門科目群Ⅰ～Ⅴ，Global College 科目群より卒業論文に替えて4単位を修得すること。
	基 礎 ゼ ミ Ⅱ		②				
	国 際 交 流 演 習 Ⅰ			②			
	国 際 交 流 演 習 Ⅱ				②		
	国際交流研修 a（海外）	2					
	国際交流研修 b（海外）	2					
	国際交流研修 c（海外）	2					
	国際交流研修 d（国内）	2					
	地 域 プ ロ ジ ェ ク ト	2					
	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン イ ン タ ー ン シ ッ プ	3					
	国際交流インターンシップ			3			
	卒 業 論 文				4		

(5) 専門科目群V（専門関連科目群）

日本語教育に関連する科目と諸専門分野に関連する科目を学ぶ科目群である。

系列	授 業 科 目	年次および単位数				最低修得 単 位 数	備 考
		1年	2年	3年	4年		
専 門 科 目 群 V (専 門 関 連 科 目 群)	法 律 学 概 論		2			6 単位	
	国 際 法			4			
	国 際 経 済 学			2			
	経 済 原 論 a		2				
	経 済 原 論 b		2				
	倫 理 学 概 論		2				
	比 較 文 化 概 論	2					
	日 本 語 学 概 論 a	2					
	日 本 語 学 概 論 b	2					
	日 本 の 歴 史 a	2					
	日 本 の 歴 史 b	2					
	日 本 地 理	2					
	日 本 語 の 音 声		2				
	日 本 語 の 語 彙 ・ 意 味	2					
	日 本 語 の 文 法 a	2					
	日 本 語 の 文 法 b	2					
	日 本 語 教 授 法 a (教 授 法)		2				
	日 本 語 教 授 法 b (コ ー ス デ ザ イ ン ・ 評 価)		2				
	日 本 語 教 授 法 c (教 材 ・ 教 具)		2				
	日 本 語 教 育 事 情			2			
	日 本 語 教 育 実 習			4			
ア メ リ カ 文 学 概 論	2						
近 代 イ ギ リ ス 文 学		2					
世 界 の 児 童 文 学	2						
生 涯 ス ポ ー ツ 概 論	2						
History of Japan a	2						
History of Japan b	2						

6. Global College 科目群

Global College 科目群には、世界で通用するグローバル人材を目指して、ビジネス、政治、異文化理解、文化、文学など幅広い教養を英語で学ぶことができる科目を配置している。

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
Global College 科 目 群	Introduction to Japanese Literature	2				「Global College 科目群」において修得した単位は、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」と併せて30単位を限度として、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。
	Japanese Literature in Translation a	2				
	Japanese Literature in Translation b	2				
	Modern American Literature	2				
	Modern Women's Literature	2				
	Modern Poetry	2				
	Japanese Art and Literature	2				
	Samurai Tradition in Edo Culture	2				
	Japanese Art & Museum Management		2			
	Tradition in Contemporary Japan	2				
	Theory of Acculturation: Minorities in Japan		2			
	Europe and Japan a	2				
	Europe and Japan b	2				
	Cinema Studies	2				
	The Great Directors in the World I	2				
	The Great Directors in the World II	2				
	Japanese Film and Visual Art	2				
	Japan-U.S. Film Comparative Research		2			
	Introduction to French Cinema I	2				
	Introduction to French Cinema II	2				
	Film Industry in Hollywood	2				
	Reading Comics in English	2				
	Animation	2				
	Sound Design		2			
	Gender and Culture	2				
	Modernism in Architecture	2				
The Cityscape Worldwide	2					
Business and Society	2					
International Finance			2			

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1 年	2 年	3 年	4 年	
Global College 科目群	International Marketing			2		
	Introduction to Database Theory			2		
	Introduction to Global Management	2				
	Strategic Management		2			
	Methodologies of Cultural Observation: Travel and Dialogue		2			
	Introduction to Social and Environmental Studies	2				
	Ecology Policy	2				
	Environmental Issues & Technology		2			
	Introduction to Health Science	2				
	Japanese to English Translation			2		

7. 特設科目群

英語を母語とする外国人留学生および英語圏外国人留学生を対象とし、日本語力の向上をはかる科目群である。

系 列	授 業 科 目	年次および単位数				備 考
		1年	2年	3年	4年	
特 設 科 目 群	Basic Japanese a	4				英語を母語とする外国人留学生および英語圏外国人留学生を対象とする。修得した単位は、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」と併せて30単位を上限として、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。 「Basic Japanese a・b・c・d」 「Intermediate Japanese a・b・c・d」 「Advanced Japanese a・b」は、日本語プレズメントテストの結果によりクラス指定を受けて履修すること。 その他の科目については、オリエンテーションを受けたうえで履修すること。
	Basic Japanese b	4				
	Basic Japanese c	4				
	Basic Japanese d	4				
	Intermediate Japanese a	4				
	Intermediate Japanese b	4				
	Intermediate Japanese c	4				
	Intermediate Japanese d	4				
	Advanced Japanese a			4		
	Advanced Japanese b			4		
	JLPT course a			4		
	JLPT course b			4		
	Japanese Project a			2		
Japanese Project b			2			

8. 自由科目群

専門の内容以外に、教育職員免許状取得などに必要な科目を配置する。本科目群の履修単位は、卒業単位に含まれない。

系列	授業科目	年次および単位数				最低修得単位数	備考
		1年	2年	3年	4年		
自由科目群	教育原理		2				
	教育課程論	2					
	教職論	2					
	教育心理学		2				
	青年心理学		2				
	教育制度		2				
	教育方法論			2			
	社会科教育法Ⅰ			2			
	社会科教育法Ⅱ			2			
	社会科教育法Ⅲ			2			
	社会科教育法Ⅳ				2		
	公民科教育法Ⅰ			2			
	公民科教育法Ⅱ			2			
	英語科教育法Ⅰ			2			
	英語科教育法Ⅱ			2			
	英語科教育法Ⅲ			2			
	英語科教育法Ⅳ				2		
	道徳教育の理論と方法	2					
	特別活動論		2				
	生徒指導(進路指導の理論及び方法を含む)		2				
教育相談(カウンセリングを含む)			2				
教育実習Ⅰ(事前及び事後指導を含む)				3			
教育実習Ⅱ				2			
教職実践演習(中・高)				2			

Ⅷ リベラルアーツ&サイエンス科目群

リベラルアーツ&サイエンス (LAS) センターは、本学の建学の精神に基づく人格形成、幅広い教養や知識の習得、専門分野での学業に役立つ問題意識の育成、社会人として求められる基礎能力の向上等を主たる目標として掲げている。

学生の皆さんにも、こうした問題意識をもって科目履修をしてもらうために、学部・学科ですでに開講している科目を“人格形成領域”“一般教養領域”“基礎能力領域”という3領域に大きく分けて整理し直し、「リベラルアーツ&サイエンス科目群」として特別に提示している。各々の領域は、

人格形成領域：「地球と環境」「人間と思想」「国家と規範」「倫理と社会」「社会とジェンダー」
という5テーマ

一般教養領域：「人類のあゆみ」「文化のかたち」「社会と経済」「健康と福祉」という4テーマ

基礎能力領域：「非言語分野」「言語分野」「ビジネスマナー」「プレゼンテーション」という4
テーマ

に分けてまとめている。いずれも、学生の皆さんが就職して社会へ出る準備をするうえで重要とされるテーマである。

これらに加えて、LASセンターが特に力を入れたい分野・テーマについては独自の科目として開講し、さらに必要に応じて開講するサマースクール等も「総合基礎教養Ⅰ～Ⅳ」として単位認定する。LASセンターが独自に開講するこれらの科目は、すべて1～4年次のいずれかで履修することができる。

「リベラルアーツ&サイエンス科目群」を履修して取得した単位は、30単位を限度として申請により、学部・学科の各科目群に振り替えることができる。「リベラルアーツ&サイエンス科目群」の履修や内容についての質問、学業にかかわる相談等は、本部棟4階にあるLASセンターにて随時受け付けている。

リベラルアーツ&サイエンス科目群

領域	系 列	授業科目	年次および単位数				備 考
			1年	2年	3年	4年	
人格形成領域	①地球と環境	生活と環境	2				L A S科目群から修得した単位の中から30単位を限度として、各科目群に申請により振り替えることができます。詳細については、オリエンテーション時に説明します。
		現代の人間思想	2				
	②人間と思想	現代思想	2				
		日本国憲法 ※	2				
		法律学概論 ※		2			
	③国家と規範	政治学入門 ※		2			
		倫理学概論 ※		2			
	④倫理と社会	情報社会と情報倫理	2				
		女性学入門	2				
	⑤社会とジェンダー	ジェンダー論 ※	2				
サルからヒトへ		2					
一般教養領域	①人類のあゆみ	日本の歴史 a ※	2				
		日本の歴史 b ※	2				
		アメリカの歴史	2				
		韓国の歴史	2				
		中国の歴史	2				
		人類と科学技術の発達		2			
		文化人類学 ※	2				
	②文化のかたち	日本文化論 ※	2				
		アメリカ文化概論	2				
		日本美術 ※	2				
		西洋美術 ※	2				
		社会学入門	2				
	③社会と経済	経済事情	2				
		経済学入門 ※		2			
		経済学の基礎	2				
		中国経済入門		2			
	④健康と福祉	心と身体の科学		2			
		健康維持と生活習慣		2			
	基礎能力領域	①非言語分野	基礎の数学	2			
			線形代数学	2			
統計学の基礎知識			2				
総合基礎教養Ⅰ(非言語)				2			
総合基礎教養Ⅱ(非言語)				2			
②言語分野		日本語基礎表現法		2			
		総合基礎教養Ⅲ(言語)		2			
		総合基礎教養Ⅳ(言語)		2			
③ビジネスマナー		ビジネス入門 ※	2				
		ビジネス基礎 ※		2			
		ビジネスマナー		2			

領域	系 列	授業科目	年次および単位数				備 考
			1 年	2 年	3 年	4 年	
基礎能力領域	③ ビジネスマナー	航空・空港キャリア概論 a ※	2				
		航空・空港キャリア概論 b ※	2				
	④ プレゼンテーション	プレゼンテーション I	2				
		プレゼンテーション II	2				

※ 印は国際交流学科の科目群に既存

IX 履修申請について

各年次において履修しようとする科目は、毎学期の初めの指定された期日に所定の方法（オリエンテーションで説明する）で履修申請をしなければならない。履修申請は年間の受講計画を立て、単位を取得する意思表示をする学期初めの重要な手続きである。この履修申請手続きを間違えたために授業科目の履修ができなくなり、その結果、進級はもとより卒業ができなくなる場合もあるので、以下に掲げる注意事項を厳守して、誤りの無いように履修申請をすること。

- (1) 履修授業科目の変更、追加、取消しなどが無いよう、入力をする前に授業時間割表に照らし合わせ再確認するなど、細心の注意を払うこと。なお、履修照合期間が設けられているので、間違いなく登録されているかどうかを必ず確認すること。
- (2) 履修申請をしていない授業科目は受講しても単位は認められない。また、修得した単位は分割することはできない。よって、授業科目の申請にあたっては進級や卒業に必要な単位の算定を慎重に行い、修得単位数が不足しないように万全を期すこと。
- (3) 同一学期の同一時限に2つ以上の授業科目を履修することはできない。
- (4) 一度単位を修得した授業科目は、再度履修することはできない。
- (5) Web履修登録では、授業科目を正しく入力すること。入力上の誤りがあると申請自体が無効になることがあるので十分注意すること。また、入力の際、PCの前で長時間考えているとタイムアウトになる可能性があるため、登録する講義や時間割の下書きを予め準備してから入力すること。なお、大学内に設置されているPCの台数は限られているので、Web履修登録のために長時間占有しないこと。
- (6) 履修の都合によりコマ・コード番号が必要となる場合がある。コマ・コード番号とは、時間割表に授業科目と共に記載されている番号で、その時限の授業科目に固有の番号である。
- (7) 指定された期日までに履修申請を怠った場合は、学業の意思なしとみなされて、退学処分となるので入力期限を厳守すること。
- (8) 教職課程・副専攻・留学等、履修についての質問は、それぞれのアドバイザーもしくは、学部事務室に相談すること。

X 正規の履修からはずれる場合

1. 再履修

履修申請をして単位が修得できなかった授業科目については、次年度または次学期において再び履修することができる。

2. 規定外履修

該当するクラスの授業時間以外のクラスで受講せざるを得ない場合は、必ず学部事務室に相談すること。ただし1年次生の規定外履修は原則として認めない。

XI 試験について

1. 定期試験および臨時試験

- (1) 試験は定期試験と臨時試験があり、定期試験は原則として学期末あるいは学年末に行い、臨時試験は担当教員の判断により適宜行われる。
- (2) いずれの授業科目も授業時数の1/3以上欠席した場合には、原則として当該授業科目の受験資格を失う。但し、病気または正当な理由による長期欠席の場合には、特別に配慮されることがある。
- (3) 試験の時間割は掲示により連絡する。
- (4) 授業科目によっては論文（レポート）提出によって試験に代える場合がある。

2. 追 試 験

- (1) 追試験はやむを得ない事情によって定期試験を受験できなかった者に対し、原則として学期末または学年末に実施する。
- (2) 追試験を希望する者は、正当な事由を証明する書面をもって速やかに授業担当教員に届け出ること。
- (3) 追試験は成績表の当該科目にTの表示がなされた場合に限り受験することができる。
なお、追試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (4) 追試験を受験しようとする者は、「追試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、追試験の受験料は1科目につき200円である。

3. 再 試 験

- (1) 再試験は、原則として学期末または学年末に実施する。但し、授業科目によっては再試験を行わない場合もある。
- (2) 定期試験の結果、不合格（この場合成績表の当該科目にFの表示がなされる）となった授業科目のある者は、当該授業科目の担当教員が再試験を行う場合に限り、再試験を受験することができる。
なお、再試験は、履修（再履修を含む）した年度に限り受験することができる。
- (3) 再試験の受験を許可された者は、「再試験受験願」を学部事務室に提出しなければならない。

なお、再試験の受験料1科目につき1,000円である。

4. 試験に関する注意

1. 通 則

- (1) 試験場内では、すべて監督者の指示に従わなければならない。なお、監督者の指示に従わない者には、退場を命ずることがある。

- (2) 試験場内では、筆記用具・持込みを許された資料以外のものはすべて監督者の指定する場所におかなければならない。
- (3) 受験者は学生証または受験許可証を机の上の見やすい場所に提示しておかなければならない。
- (4) 試験開始から20分を経過した後は入室，受験を認めない。
- (5) 試験開始から25分を経過するまでは退場を認めない。なお，監督者が退場を命ずる場合はこの限りではない。
- (6) 受験者は，試験中監督者の許可を得ないで試験場を出てはならない。
- (7) 試験の行われる学期の授業料が未納の者，授業時数の1/3以上欠席した者は，試験を受けることができない。
- (8) 病気・事故その他正当な事由によって受験できなかった者は，診断書・事故証明その他正当な事由を証明する書面を添えて，遅滞なく授業担当教員に届出なければならない。

2. 試験における不正行為の懲戒について

- (1) 不正行為をした者については，学則第68条により罰せられ，更に年度における当該授業科目の単位の認定を行わない。
- (2) 不正行為のあった者の懲戒処分については，教授会の審議を経て，学長が決定する。
- (3) 学長はその旨保証人を召喚して通知すると共に学内にこれを公示する。

3. 試験における不正行為とは

- (1) 他の人から答えを教わることや，教えること等，いわゆるカンニング及びその手助けをすること。
- (2) 本人以外の名前・学籍番号で受験すること。
- (3) 許可されていないものを使用すること。
- (4) 「解答はじめ」の前，及び「解答おわり」の後に，試験監督の指示に従わず，解答を続けること。
- (5) その他，試験監督の指示に従わないこと。
- (6) 論文・レポート等において，剽窃行為をすること。

※剽窃行為…引用の形式をとらず，著作権者に無断で著作物を複製・転載する行為。学術上のルール・モラルに反する行為であり，著作権法に違反する行為。

XII 授業科目の単位認定と進級および留年

1. 単位認定

- (1) 各科目の成績は，シラバス記載の成績評価基準に基づき総合的に判定する。
- (2) 100点を満点とし，60点以上をもって単位修得（合格）とする。
その評価は次に従う。

評価	得点分布
S	100点～90点
A	89点～80点
B	79点～70点
C	69点～60点

- (3) 再試験における評価は60点を合格とし、79点を上限とする。
- (4) 再試験における成績評価の最高点は、定期試験合格者の成績評価の最低点を上回らないものとする。

2. 進級及び留年

- (1) 3年次への進級については、指定された進級要件を満たした場合に可能となる。
 なお、指定された進級要件を満たさない場合においても、教授会の決定により進級を認める場合がある。
- (2) 4年次で卒業要件を満たさない者は留年とする。

XIII 成績発表

- (1) 成績発表は、アドバイザーまたは演習担当教員より本人に成績表を交付するので、学部事務室の指示に従って必ず交付を受けること。その際、学生証を提示すること。
 なお、指定された期日以外には交付しない。
- (2) 成績の評価は次の記号で表わし、60点以上をもって単位修得（合格）とする。
- | （合格） | （正規試験不合格） | （追・再試験不合格） |
|-----------|-----------------|------------|
| S：100～90点 | F：59点以下（再試験受験可） | D：59点以下 |
| A：89～80点 | T：追試験受験可 | E：未受験 |
| B：79～70点 | Z：追・再試験の受験資格なし | |
| C：69～60点 | 評価不能 | |
- (3) 成績表には、学習成果を総合的に推し量る指標 GPA（Grade Point Average）を表記している。
 詳細については、Web履修登録画面にて確認すること。
- (4) 成績についての疑問、質問等は成績表交付日のみ受け付けるので、学部事務室に問合わせること。
- (5) 事故、病気等により指定日に成績表の交付を受けられない場合は、代理人を定め、成績表の交付を受けること。その場合は学生証および委任状を持参すること。

XIV Guideline for Students Mainly Using English as a Medium of Instruction

1. Guideline for the Registration of English Native Students

This is a guideline for students who want to graduate by taking courses mainly using English as a medium of instruction. In this guideline, students whose mother tongue is English or whose English proficiency is almost equal to those of native English speakers are called Eigo Bogo Gakusei (EBGs). Courses taught in English are called English language courses in this guideline.

1. 英語母語学生の履修ガイドライン

ここでは英語を主たる言語として本学科の科目を履修して、卒業を目指す学生のためのガイドラインを示す。このガイドラインでは、英語が母語である学生、もしくは母語相当の英語能力を有する学生を以下、英語母語学生と略称する。

(1) EBGs can register for a certain number of English language courses. However in the curriculum of the Department of International Exchange Studies, EBGs are not able to graduate by taking only English language courses. EBGs are required to study Japanese intensively, enhance their Japanese proficiency gradually and earn a number of required credits from courses taught in Japanese. EBGs cannot take only English language courses but must also take courses taught in Japanese, and graduate with credits from those courses. For this end, Nihongo (Japanese language) courses, and courses to learn Japanese as a foreign language, are compulsory.

(1) 英語母語学生は、英語で一定数の科目を学ぶことができる。但し、本学科の履修要件に該当する科目をすべて英語で履修して卒業することは、本学科のカリキュラムでは想定していない。本学科では日本語を順次マスターし、必要な単位を日本語でも修得できるようになり、英語のみならず日本語でも学び単位を修得して卒業を目指すものとする。そのため外国語として日本語を学ぶ科目を必修として用意している。

(2) As stated above, EBGs can study a number of English language courses, but they must also do an intensive study of Japanese as a foreign language. If EBGs cannot fulfill the requirements for graduation, they should take some courses taught in Japanese.

(2) 以上から英語母語学生は、外国語としての日本語を集中的に学びながら、その他の科目の多くを英語を主たる言語として受講し、それでも卒業要件に足りない場合には日本語でも科

目を受講するものとする。

(3) The curriculum, and the requirements for graduation, are shown in the guideline of enrollment. Please be aware that many of the English language courses are not offered every year but only every two or more years due to the small number of students taking these courses. Therefore, when an English language course is offered and EGBs are able to take it, they should regard it as a compulsory course in principle, and therefore give priority to such classes. If an EBG does not take such a course and, as a result, is unable to fulfill the requirements for graduation, the department cannot be held responsible for this situation.

(3) 英語母語学生のカリキュラム・履修条件は以下の履修ガイドに示すが、英語で教える科目の多くは、受講生数が少ないなどの理由から、隔年などの毎年でない開講となる。従って、履修可能年次に達していたら、開講されている科目は実質的に必修科目と同等と考え、開講の際に受講するようにしてもらいたい。受講機会がありながら受講しなかった結果、卒業等に支障を来たしたとしても、本学科では責任は負えない。

(4) Some courses may be taught both in English and Japanese. In some courses, EGBs may be expected to play a different role from that of Japanese students, for example, as a tutor or a mentor to assist the instructor.

(4) 科目によっては、英語と日本語両言語に対応して講義がなされる場合もある。また、コースによっては英語母語学生には、授業内において授業補助を行なうチューター、メンターなど他の学生と異なる役割が求められることもある。

(5) Students who are not EGBs can also take English language courses if they have the required level of English proficiency.

(5) 英語母語学生でない日本人学生・留学生であっても、英語力が一定のレベルに達していれば、このガイドラインで示した科目の受講は可能である。

The Guideline of Enrollment for EGBs

英語母語学生の履修ガイドライン

* The number in parentheses () are the number of credits which can be earned from English language courses in each group.

** The year in which each course will be offered is shown in brackets []. For example, [y1]

means the first year. To confirm the year in which each course will be offered, please also see the curriculum tables in the previous pages. A student in a higher academic year can take courses offered in lower years.

Course Group 科目群等	Minimum Credits 必要単位数 *()内は英語受講可能単位数	Course Requirements and Titles of English Language Courses in a Course Group 履修条件及び各科目群において英語で受講が可能な科目(「英語受講可能科目」と呼ぶ) **[]内は配当年次を示す。たとえば[y1]は1学年。前述のカリキュラム表も併せて参照のこと。上位学年の学生は、原則として下位学年の科目を履修できる。
Co-Listing I (Japanese) 学科共通科目群 I (日本語)	22 (0)	No courses are taught in English. EBGs should take Nihongo (Japanese language) courses. They are required to take a Japanese proficiency test before enrollment and will be designated to take some of the Nihongo courses based on their language level. They cannot change the designated courses without permission. ----- 「英語受講可能科目」なし。日本語を受講すること。履修前に日本語テストを受け、指定された科目を履修すること。許可なく科目を変更することはできない。
Co-Listing II (Information Media) 学科共通科目群 II (情報科学)	4 (0)	No courses are taught in English. The courses to take will be designated from courses taught in English and/or Japanese. ----- 「英語受講可能科目」なし。受講科目を英語による科目もしくは日本語による科目より指定する。
Core Courses 学部コア科目群	6 (2)	Cross-Culture Understanding [y1 & 2] 2 credits in this category must be earned from this course. The remaining 4 credits can be earned from courses in the course group Basic Courses of International Liberal Arts. ----- Cross-Culture Understanding [y1 & 2] 上記科目の単位を修得した上で、残る4単位は「国際教養科目群」より受講すること。

<p>Basic Courses of International Liberal Arts 国際教養科目群</p>	<p>10 (16)</p>	<p>◎Japan from an International Perspective [y1] Japanese Culture a: Art & World Heritage Sites [y1 & 2] Japanese Culture b: Popular Culture (Manga) [y1 & 2] Japanese Culture c: Popular Culture (Anime) [y1 & 2] Japanese Society: Thought and Behavior [y1 & 2] ◎Introduction to Political Science [y2] ◎Introduction to Economics [y2] International Volunteering [y1 & 2] 10 credits must be earned in this category including 6 credits from the 3 compulsory courses marked ◎</p> <hr/> <p>◎Japan from an International Perspective [y1] Japanese Culture a: Art & World Heritage Sites [y1 & 2] Japanese Culture b: Popular Culture (Manga) [y1 & 2] Japanese Culture c: Popular Culture (Anime) [y1 & 2] Japanese Society: Thought and Behavior [y1 & 2] ◎Introduction to Political Science [y2] ◎Introduction to Economics [y2] International Volunteering [y1 & 2] 上記科目から、必修◎3科目6単位を含み、10単位修得のこと。</p>
<p>Fundamental Courses: Languages and Culture 専門基礎科目群 (世界の文化と言語)</p>	<p>6 (0)</p>	<p>No courses are taught in English. However, some second foreign language courses can be taught both in English and in Japanese. Therefore, please consult the instructor of a second foreign language before or during the registration period if you want to study it. Second foreign languages courses consist of: German, French, Spanish, Portuguese, Chinese, Korean, Hungarian, Polish, Czech, and Swedish. The foreign language courses are liable to change each year.</p>

			<p>Students are required to study both IA and IB of at least one second foreign language. It must not be their mother tongue. To study IB, students must have already received credits for IA.</p> <p>EBGs who have no Japanese proficiency can take two Nihongo courses with 4 credits from courses in Co-Listing I (Japanese) and regard them as 4 required credits of a second foreign language. These 4 credits, of course, cannot be included among the 22 required course credits in Co-Listing I (Japanese).</p> <p>The remaining 2 credits can be earned from other course groups.</p> <hr/> <p>「英語受講可能科目」なし。但し、第二外国語科目の中には英語での受講が可能な科目もあるので、個別に科目担当者に履修の際に相談すること。</p> <p>第二外国語の同一言語の IA・IB を修得すること。その第二外国語が母語であってはならない。IB を履修するには、IA を修得していなければならない。</p> <p>なお、英語母語学生（日本語に堪能な者は除く）は、「学科共通科目群 I（日本語）」において日本語の 2 科目 4 単位を同科目群で必要な 22 単位とは別に修得することによって、上記の第二外国語修得条件を満たしたものとする。</p> <p>第二外国語修得条件を満たした上での残りの 2 単位については、他の科目群より修得すること。</p>
<p>Major Course I: Cross-Cultural Understanding and International Exchange 専門科目群 I (異文化理解交流)</p>	<p>34 (48)</p>	<p>8 (14)</p>	<p>History of International Relations: Asia [y2 & 3] History of International Exchange: Europe & North America [y2 & 3] Introduction to NGO/NPO [y2 & 3] NGO/NPO Studies [y3 & 4] International Relations: Politics, Organizations and Law [y3 & 4] Japan and North America: Minority Studies [y1]</p>

		<p>Japan and Central and South America [y1] A minimum 8 credits must be earned from these courses.</p> <hr/> <p>History of International Relations: Asia [y2 & 3] History of International Exchange: Europe & North America [y2 & 3] Introduction to NGO/NPO [y2 & 3] NGO/NPO Studies [y3 & 4] International Relations: Politics, Organizations and Law [y3 & 4] Japan and North America: Minority Studies [y1] Japan and Central and South America [y1] 上記科目から、8単位修得のこと。</p>
<p>Major Course II: International Communication 専門科目群Ⅱ（国際コミュニケーション）</p>	<p>8 (6)</p>	<p>Introduction to Linguistics [y1 & 2] Non-Verbal Communication: Japan [y2 & 3] Introduction to International Communication [y1 & 2] 6 credits must be earned from these courses. The remaining 2 credits can be earned from the courses in Major Course I: Cross-Cultural Understanding and International Exchange and Major Course III: English Project.</p> <hr/> <p>Introduction to Linguistics [y1 & 2] Non-Verbal Communication: Japan [y2 & 3] Introduction to International Communication [y1 & 2] 上記科目の単位を修得した上で、残りの2単位分は、専門科目群Ⅰ・Ⅲより修得すること。</p>
<p>Major Course III: English Project 専門科目群Ⅲ（英語プロジェクト）</p>	<p>0 (28)</p>	<p>Weekend Intensive English [y1 & 2]**** 4 credits with special conditions: please consult the instructor. Introduction to Academic English [y1 & 2] English Project Education: Newspaper Writing I [y2]</p>

		<p>English Project Education: Newspaper Writing II [y3] English Project Education: Newspaper Writing III [y4] English Project Education: Mentor Program I [y3] English Project Education: Mentor Program II [y4] English Teaching Methodology I [y2 & 3] English Teaching Methodology II [y3 & 4] Oral English for Children a [y2 & 3] Oral English for Children b [y3 & 4] Public Speaking [y3 & 4] Presentation Skills [y3 & 4]</p>
<p>Major Course I, II, III 専門科目群 I ~ III</p>		<p>34 credits in total should be earned from Major Course I, II, III.</p> <hr/> <p>上記, 専門科目群 I・II・IIIから, 合計で 34 単位以上を修得しなければならない。</p>
<p>Major Course IV: Seminars 専門科目群 IV (演習)</p>	<p>12 (12)</p>	<p>◎基礎ゼミ I (Basic Seminar I) [y1] ◎基礎ゼミ II (Basic Seminar II) [y2] ◎国際交流演習 I (International Exchange Seminar I) [y3] ◎国際交流演習 II (International Exchange Seminar II) [y4] 卒業論文 (Graduation Thesis) [y4]**** 4 credits with conditions below These four seminar courses are compulsory. EBGs must take these seminar courses together with Japanese and other foreign students. In some cases, EBGs may be offered a different program to take. A graduation thesis can be written in English and should be written under the instruction of the seminar teacher. Students who do not write a graduation thesis must take 4 additional credits from courses in Major Course I, II, III, IV, V and the Global College Course Group.</p> <hr/> <p>◎基礎ゼミ I (Basic Seminar I) [y1] ◎基礎ゼミ II (Basic Seminar II) [y2]</p>

		<p>◎国際交流演習 I (International Exchange Seminar I) [y3]</p> <p>◎国際交流演習 II (International Exchange Seminar II) [y4]</p> <p>卒業論文 (Graduation Thesis) [y4]</p> <p>「基礎ゼミ」「演習」は必修であり、日本人学生や他の外国人学生と同一の科目を履修することになる。但し、別途、英語母語学生に対応したプログラムを組む場合もある。卒業論文は英語でも提出可能である。卒業論文を選択しない場合には、専門科目群 I～V、および Global College 科目群より、4 年次に別に 4 単位を修得すること。</p>
Major Courses V: Related Major Courses 専門科目群 V (専門関連科目群)	6 (4)	<p>History of Japan a [y1 & 2]</p> <p>History of Japan b [y1 & 2]</p> <p>4 credits must be earned from the courses above. The remaining 2 credits can be earned from the courses in Major Course I: Cross-Cultural Understanding and International Exchange or Major Course III: English Project.</p> <hr/> <p>History of Japan a [y1 & 2]</p> <p>History of Japan b [y1 & 2]</p> <p>上記科目の単位を修得した上で、残りの 2 単位分は、専門科目群 I・Ⅲより修得すること。</p>
Global College Course Group Global College 科目群	0 (78)	<p>Please see table 6: Global College Kamokugun (科目群). 39 courses with 78 credits are in this course group this year. The courses offered are liable to change in each year. Students are highly recommended to take as many credits as possible from this Global College course group in order to graduate.</p> <hr/> <p>6. Global College 科目群の表のとおり、39 科目 78 単位が配置されている (科目・単位数は年度によって変更があり得る)。卒業するためには、この Global College 科目群からできるだけ多くの単位を修得することが推奨される。</p>

Other Requirements その他	26	<p>The remaining 26 credits can be earned from courses in the above-mentioned groups and/or in other faculties and departments, i.e. Department of Intercultural Studies, Faculty of Management and Information Sciences, Faculty of Social Work Studies, Faculty of Media Studies, Faculty of Social and Environmental Studies, and Faculty of Tourism.</p> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <p>各科目群で指定された必要修得単位のほかに、国際交流学科のすべての科目群、もしくは国際人文学部国際文化学科、経営情報学部、福祉総合学部、メディア学部、環境社会学部、観光学部の科目より26単位以上修得すること。</p>
Total 計	126	

2. Curriculum and Credits

For each semester of an academic year, the student should submit a course registration request form which shows the courses that the student plans to take. The form should conform to the faculty's regulations, which will be explained in detail during the orientation sessions, and should be submitted by the time specified by the department. The form is an important document that describes the student's study schedule in the current semester, quoting the course titles, the names of the professors in charge, the number code of each course and the number of credits attached to each course. Any mistakes in this process may lead to the student being unable to progress to higher-level classes or even graduate.

(1) After completing the course registration request form, the student should reread it carefully to avoid possible mistakes. The student also needs to check and see whether there are changes in the list of courses, the timetables, and the professors in charge of these courses so that he/she can make appropriate modification of his/her course registration request form.

In each semester there will be one day assigned for curriculum verification. The modified course registration request form should be submitted to the Faculty Affairs Office by the end of this day. As the Faculty Affairs Office doesn't return the application form to the student once submitted, it is advised that the student keeps a copy.

(2) The student cannot obtain any credits related to those courses not listed in his/her course registration request form.

(3) The student cannot apply for two or more courses which are taught in the same hour of a day. As an example, if an application form contains course A, course B, and course C and all these courses are scheduled in the same period of a weekday, all courses will automatically be deleted.

(4) The student cannot apply for a course for which he/she has already obtained credits.

(5) The course registration request form should be completed online with correct course names, course code numbers, and number of credits assigned to each course. Course registration request forms containing input errors on these items are invalid and will not be processed. Note that if you spend too much time filling out the online form, there is a risk of timing out and losing your data. Therefore, it is best to prepare in advance a draft of course names and periods you are requesting, and only then begin the online process of filling out the course registration request form. Be advised that there are a limited number of PCs on campus and you must not monopolize them accessing the Web for long periods.

(6) As the registration procedure for the Japanese language courses may differ from that for other courses, the student is advised to pay due attention during the orientation sessions to avoid possible mistakes.

- (7) Each course code number corresponds to a course in a specific period of the timetable.
- (8) A student who does not submit his/her course registration request form online in due time may be assumed to be unwilling to follow the Faculty's academic program, and thus may be dismissed from school.

3. Registration for Courses Previously Attended and Courses not Included in the Faculty's Program

1. Registration for previously attempted Courses

If the student fails to pass a course, he/she can register again for that course in a later semester.

2. Registration for courses not included in the Faculty's current curriculum

In the specific situation that the student is obliged to take a course that is not included in the Faculty's current program the student should consult with the Faculty Affairs Office for permission. In principle, a student in his/her freshman year is not allowed to take classes that are not included in the current curriculum.

4. End-of-Term Examinations

1. Scheduled and unscheduled examinations

(1) There are two categories of examinations: scheduled and unscheduled. The scheduled examinations are held at the end of each semester for most courses in the department. Unscheduled or extraordinary examinations are held on an irregular basis for special cases in which the professors in charge administer the exams on their own initiative.

(2) For any course, the student may not be allowed to take the term examination if he/she fails to attend more than two thirds of the total classes held in the semester (absences due to sickness or other unavoidable reasons may be given special consideration).

(3) The time schedule for the term examinations in each semester will be displayed on the department's bulletin boards.

(4) There may be cases in which the professor in charge will assign a term paper (sometimes called 'report' in Japanese) instead of a term examination.

2. Make-up exams ("Tsuishiken")

Make-up examinations are generally held at the end of each semester for those students who have not taken the scheduled exams due to justifiable reasons.

(1) In order to be eligible for a make-up exam, the student should submit official documents to the professor in charge, justifying the reasons for which he/she could not attend

the scheduled exam.

(2) The student can take a make-up exam for a course that gets a grade “T” in his/her academic records card.

(3) To take a make-up exam for a course, the student must submit a make-up exam card (“Tsuishiken Juken Negai”) to the Faculty Affairs Office and pay the exam fee (200 yen for each course).

3. Re-examinations (“Saishiken”)

(1) In principle, at the end of each semester, re-examinations are held for all courses provided in that semester. (But in some special cases the professors in charge may determine not to hold re-examinations).

(2) A student can take a re-examination for a course that he/she fails to pass in the scheduled exam if given an F grade and if the professor in charge determines to hold the exam. However, the time span that a student can take the re-examination of a course is limited to the semester or academic year in which he/she registers for that course.

(3) A student eligible for the re-examination of a course has to submit a re-examination application form (Saishiken Juken Negai) to the Faculty Affairs Office and pay a re-examination fee (1000 yen for each course).

4. Term Exam Regulations

General regulations

(1) In the room where the examination is being held, the student must follow the administrators’ instructions, otherwise he/she could be ordered to leave the examination room.

(2) In the room where the examination is being held, the student must keep all his/her belongings, except writing implements and other allowed materials, in the places indicated by the administrators.

(3) The student must exhibit his/her student ID or Permission Card in a visible location on the desk.

(4) After twenty minutes from the beginning of the test, the students are not allowed to enter the room and take the exam.

(5) The student is not allowed to leave the room during the first twenty-five minutes, except for justifiable reasons (sickness, etc) .

(6) During the examination the student cannot leave the room without the administrators’ permission.

(7) Students who fail to pay tuition due for the semester and those who fail to attend more than two thirds of the total number of course classes are not allowed to take the examination.

(8) Those students who cannot show up for an examination due to sickness or accidents should promptly submit a medical certification or accident report document to the professor in charge.

Disciplinary actions against misconduct

(1) School regulation code No. 68 will be applied to all misconducts in an examination, disallowing the concerned student from applying for the related credits in that academic year.

(2) When misconducts occur in an examination, the faculty's professor committee will hold meetings to deliberate and determine due disciplinary actions.

(3) For any cases of student misconduct, the Faculty's professor committee will inform its decisions to the president of JIU, who then will summon the student's guarantor to announce the decisions. The decisions will also be announced on the faculty's bulletin boards.

5. Credit recognition for course subjects: Academic year advancement and retention

1. Credit recognition

(1) The score for each subject is judged entirely according to the results of tests, reports, etc.

(2) For tests, 100 points is considered a full score while a score of more than 60 points is regarded as a pass, and is recognised as having certified credit.

The evaluation is as follows.

Evaluation	Score distribution
S	90points ~ 100 points
A	80 points ~ 89 points
B	70 points ~ 79 points
C	60 points ~ 69 points

(3) For a retest, a passing score is 60 points, with 79 points regarded as the upper limit score.

(4) The highest grade evaluation for a retest shall not exceed the lowest grade evaluation of students who successfully passed the regular examination.

(5) In the case of a "Z" grade due to absence, cheating in an exam etc., where it is difficult to reschedule the relevant subject due to a student's class schedule, students may be allowed to take classes outside the regulatory guidelines.

2. Treatment of students with a long period of absence due to justifiable reasons (as evidenced by, for example, a doctor's note, a train delay slip, a bereaved person's letter of thanks, etc.)

(1) The rule allowing only those students who attended more than two-thirds of class

hours to take periodic examinations, does not apply.

(2) In the case of the number of absences exceeding one third of class hours, if there is a justifiable reason, students may be allowed to take regular examinations, additional tests, retests, supplementary lectures, etc.

3 . Handling of absentees with no justifiable reason for absence.

If a student has been absent for one-third or more of class hours per subject but has no justifiable reason, the grade for the subject will be "Z". The teacher in charge of the subject shall, in advance, inform a student who is not eligible to take the regular exam.

4 . Treatment of cases of cheating

(1) In the case of students caught cheating, the grade for the subject shall be "Z".

(2) For the handling of other fraudulent behavior, see page xx.

5 . Academic year advancement and retention

(1) It is possible for a student to proceed to the next academic year when the preliminarily certified credits are recognised according to the academic advancement standard separately specified.

(2) A student who must repeat an academic year is required to retake all the compulsory courses that were failed in the special subject group I of the relevant grade.

(3) Students who were unable to graduate in the 4th grade must repeat a year or postpone their graduation.

(4) For students enrolled in the same grade for 2 years or longer and can not proceed without justifiable reason, appropriate measures shall be taken in accordance with the school regulations.

6. Report of Academic Records

(1) The student will receive his/her academic records through his/her advisor. As the delivery of academic records takes place on a specific day in the current semester, the student should strictly follow the faculty office's instructions. The student will be requested to show his/her student ID when receiving the academic records.

(2) The student is considered to have passed an exam and to be eligible for credits of the concerned course when his/her mark is equal to or over 60 percent. The grading system at JIU is as follows:

Passing

Failing in a scheduled exam

Failing in a make-up/re-exam

S: 90～100	F: less than 60 (eligible for re-exam)	D: less than 59
A: 80～89	T: eligible for make-up exam	E: did not take the exam
B: 70～79	Z: not eligible for make-up/re-exam	
C: 60～69		

(3) The student can question his/her academic records on the day of academic record delivery at the Faculty Affairs Office.

(4) If the student is unable to appear on the day of record delivery, the student can ask another person to receive his/her academic records. In this case, the representative must show the student's ID card and commission letter.

児童英語指導員養成課程

1. 児童英語指導員について

2014年より、小学校で英語教育が導入され、それに伴い、早期英語教育への関心はますます高まっています。児童に英語を教えるということは、音声重視ということと、英語に対する興味を抱かせる、外国の生活や文化に慣れ親しんだりするなど、中高生の指導法とは異なります。現在は、小学校5・6年の英語教育がベースですが、2020年までに小学校3年から英語教育を開始する方針が文部科学省からいただきました。それに伴い、小学生に英語を教えることができる教員の養成と確保がますます必要となってきます。児童英語指導員養成講座では、児童の発達段階を考慮し、早期英語教育に対応できる英語教師を養成することを目的とします。

2. 課程修了認定について

現時点では、児童英語指導員には、資格認定や免許制度がありません。大学や専門学校などの養成機関は、それに基づいてカリキュラムを組み、それぞれに課程修了認定を行っています。

本学も、所定の単位を修得した学生には、独自の課程修了認定証を発行します。修了証が必要な場合は、卒業時あるいは卒業後に、所定の手続きにより発行申請してください。

3. 課程修了認定に必要な単位について

児童英語指導員養成課程に関する科目は、国際人文学部国際交流学科に設置されています。

以下の表にしたがって、合計34単位（必修30単位，選択4単位）を修得することで、修了認定証が交付されます。なお、これらの科目はすべて卒業要件単位にも含まれます。

領域	科目名	科目群	履修年次	単位	必修選択	【参考】英語教免
児童英語教育	英語科教育法Ⅰ	自由科目群	3	2	必修	必修
	児童英語教授法Ⅰ	専門科目群Ⅱ	2・3	2	必修	
	児童英語教授法Ⅱ	専門科目群Ⅱ	2・3	2	必修	
	English Teaching MethodologyⅠ	専門科目群Ⅲ	2・3	2	必修	
	English Teaching MethodologyⅡ	専門科目群Ⅲ	3・4	2	必修	
児童英語	英米児童文学 a	専門科目群Ⅱ	2・3	2	必修	
	英米児童文学 b	専門科目群Ⅱ	3・4	2	必修	
	Oral English for Children a	専門科目群Ⅲ	2・3	2	必修	
	Oral English for Children b	専門科目群Ⅲ	3・4	2	必修	
児童心理	発達心理学	専門科目群Ⅱ	2・3	2	必修	
英米文学	アメリカ文学概論	専門科目群Ⅴ	1・2	2	必修	必修
	近代イギリス文学	専門科目群Ⅴ	2・3	2	必修	必修
言語学	英語学概論 a	専門科目群Ⅱ	1・2	2	必修	必修
	英語学概論 b	専門科目群Ⅱ	1・2	2	必修	必修
	Basic Writing Skills	学科共通Ⅰ	1	2	必修	必修
英米文化	アメリカ文化概論	他学科（国際文化学科）	1・2	2	2科目4単位選択必修	選択
	異文化間コミュニケーション論	専門科目群Ⅱ	2・3	2		必修
	比較文化概論	専門科目群Ⅴ	1・2	2		選択
	ヨーロッパ世界とアメリカ	他学科（国際文化学科）	2・3・4	2		選択

問い合わせ先：国際人文学部事務室

修了証の申請先：証明書センター

